

## 令和3年度第1回月形町地域拠点施設整備等審議会の開催結果

開催日時 令和3年4月8日（木）午後5時30分～午後6時40分  
開催場所 月形町役場大会議室  
出席委員 出席委員16名 欠席委員3名（別紙出席者名簿のとおり）  
傍聴者 なし  
月形町 上坂町長、堀副町長、五十嵐課長、竹内課長補佐、新道係長、山本

### 1 開会 五十嵐課長

### 2 挨拶

（上坂町長）審議会委員の皆さんに本当にご苦勞をおかけし、素晴らしい答申をいただきありがとうございました。

町民説明会でも月形のこれからのあり方について、月形町の20年後、30年後を考えたこと、子供たちにそういった姿を見せたこと、本当にありがとうございます。また、2030会議の設立、10年後の月形を語り合う動きも、その始まりがこの審議会であったこと、本当にうれしく思っております。

（福井会長）審議会は2回の視察研修、8回の審議会、グループ討議は数え切れない程行った、真剣に審議していただきありがとうございました。本日は、まちの方針が決まったということで、報告会ということになるのでよろしく願います。

### 3 議事

（1）議事前「まちづくり推進室」の設置について説明（五十嵐課長）

（2）整備方針について説明（竹内補佐）

#### 質疑応答

（香西委員）すごく前向きな方針になっていて、明るい気持ちになった。職員のご苦勞がうかがえて、商工業の一員としてありがとうございますと感謝を申し上げます。

温泉の道の駅について認識の確認ですが、まず温泉を直す、そこに道の駅の機能を予め入れておきましょうと、あと場所に関しては、後々、温泉または小学校で検討してくことで良いか。

（五十嵐課長）そう言う認識でございますけれども、道の駅の機能として「トイレ」、「防災の視点」、「子育ての視点」を考えないで、改修を計画し、後に必要な機能が備わっていなかったということにならないように、手戻りがないようにしたい。今申し上げた機能は、もし、道の駅が無くとも、必要な機能であると考えている。

皆楽公園で道の駅を整備の計画を提出するとなった場合、胸を張って出せるものとしたと考えている。

検討を進める中で。皆楽公園では整備ができないとなると、消去法で小学校の方へとなるかもしれませんが、国土交通省からは、皆楽公園の現在の施設で、ある程度要件をクリアできるのではと話を伺っている。比較的、お金をかけないで整備できるのではないかと考えております。今後の検討の中で進めていくということでありませ

(香西委員) どちらに造ったとしても無駄になる機能ではないということ、どちらになるかはこれからということはおわかりました。個人的には、街中である小学校に作ってもらいたいと考えますが、整備方針については、うれしい内容となっております。ありがとうございます。

(本多委員) スケジュール感を伺いたい。小学校は拠点施設、皆楽公園の改修等が終わって使えるようになるのは、いつ頃になるのか。

(五十嵐課長) まだ、決定はしていないが、皆楽公園の施設改修については、今年度基本計画を策定し、来年度実施計画を策定し、令和5年度に着工と進めていきたい。拠点施設について、教育委員会では、学校施設整備の計画づくり等にかなり時間を要するとなっている。審議会でも、児童が授業を行っているところで工事はできないのではないかと意見を頂いている。議会からも、一部からは拠点施設の早期整備との要望もある。町としては、早く進めたい思いはありますが、教育委員会での審議を待つ状況で、劇的に進むとは考えにくい。また、まちづくり推進室で進めていくことになるが、推進室としてJR跡地の活用などの他の事業も進めていかなければならない状況で、財源や事業を進める職員の配置の関係も影響してくる可能性がある。

(梅木委員) 皆楽公園の再整備の基本計画は、ある程度の計画はコンサルが行い、その後は、どこが議論して誰が立てるのか。

(五十嵐課長) 基本計画自体は町が策定する。

(梅木委員) 基本計画を立てる段階で心配事項がある。温泉を改修すること、小学校跡地の活用について、なるべく早い段階で維持費や収益を考えていくことが大切だと考える。10年後の収益状況が、まちの大きな負担になることは避けた方が良い。税金で賄うのではなく、収益をどうやって得るのか、お客をどの程度見込むのか、家賃収入をどの程度見込むのかを、早い段階でコンサルにお願いしてやった方が良い。そういうイメージを持って進めていくと、必要、必要じゃないの判断がしやすいと思う。

(竹内補佐) 温泉改修の基本計画については、老朽化の改修がメインで、老朽度調査もふくめて、改修計画を策定する。当然、今後のランニングコストも考え、しっかりとその効果が出るような施設改修となるよう、今回の業務の中で調査し、基本計画に反映させたい。設備についても効果的、効率的な施設の改修となるよう計画づくりを進める。ただ、収益の部分になると今回の業務では難しいことであるが、出て行くお金

(維持経費)を抑制するといった着眼点で進めていく。道の駅の判断をする際には、当然収益のことも含めて判断することになるので、基本計画を造っていく中で考えて、それを踏まえて次のステップに進みたいと考えている。大きな施設を整備することがありきではない。

(梅木委員) まちづくり推進室について、1人でも専任がいないと進まないのではないか。他の業務が重なり進まないと感じるので、5年、10年を見るのであれば、それだけに専念できる人が必要だと考える。来年でも良いので、専任配置を求める。

(五十嵐課長) まちづくり推進室を中心的に進める係が地域振興係であり、かなり専任に近い業務を担うことになる。

(北嶋委員) 昨年度より会社業務が様変わりした。それまでは、オープンしたての道の駅の経済効果分析などの業務も担ってきたが、今は完全にストップしており、観光関係の仕事も無くなった。今年は、会社の方針で、在宅勤務推奨となり、今後変わることは無いと考える。今、多い相談は、テレワーク、ワーケーション等のコアワーキングスペースの整備についての問合せが多い。月形町は、キャンプ場の親和性の高さや、札幌からの距離、新千歳空港からの距離だったり、当時審議会では触れてこなかった部分ですが、これからは考えていかなければならないことと考えます。

(谷口委員) 皆楽公園の再整備の中で、温泉は令和3年からであるが、他の施設はいつやるのか。

(五十嵐課長) 事業の計画を協議している際に、過疎地域の対象外との情報があった。また、国勢調査で人口が減り、交付税も1億円ほど減額の影響が出るとの話もあり、非常に財政的に厳しい状況になるとの想定の中で方針を定めた。よって、その他の施設については、それぞれの年次の振興計画のヒアリングの中で、計画的に整備を検討していくこととなった。毎年の、予算規模に沿った中で事業を進めていこうと考えている。ただ、温泉改修ほどの大きな費用とはならないと見込んでおりますので、年度毎に協議しながら進めて行きたい。

(谷口委員) 整備に関わる時に、コンサルさんや建設業者に頼りすぎずに、地域の住民とつくる(創る)ことが大切で、地域の人たちが自分たちで考えていく仕組みづくりが大切である。計画づくりはコンサルさんは得意であるが、地域の住民が計画づくりの段階から携われる仕組みが良いと思う。拠点の整備は、教育委員会の協議で先となるのであれば、その時間を使い準備していくと良い。

(五十嵐課長) 拠点の整備がいよいよ実施となった際は、今回のような町民を交えた形で進めて行きたい。大きな事業となるかと思っておりますので、そうしていかなければと考えております。温泉の改修については、建物自体を大きく改修するというのではなく、内装改修を中心に運営の効率化を図るための改修を基本としたい。温

泉改修については、早急に実施したいので、答申を持って進めていきたい。

(土井委員) 個人的な意見です。この審議会に関わって良かったです。ありがとうございました。

審議会に参加して視野が広がり、月形町に何か役に立つことが無いか考えるようになった。答申を出して終わりでは無く、これからが審議委員のスタートだと考える。これから私たちが動いてまちづくりに参加していくよう、考え実行していきたい。失敗やつまづきがあるかもしれないが皆さんや行政と協力してまちづくりを進めていきたい。

## 月形町地域拠点施設整備等審議会委員名簿

委嘱期間 令和元年6月27日～令和3年6月26日

NO	委員区分	所属等	役員	氏名	出欠
1	条例第3条第2項の 1号委員 ※町の区域内の公共 的団体及び関係機関 の会員又は職員	月形商工会青年部	副部長	香西 雅之	○
2		月形商工会女性部	副部長	土井 町子	○
3		月形町農業協同組合	専務理事	福井 誠	○
4		月形町農業協同組合女性部	部長	中村 三賀子	○
5		社会福祉法人月形町社会福祉協議会	事務局主任	齋藤 貴子	○
6		月形町老人クラブ連合会	会長	西山 雅俊	×
7		月形観光協会	会長	廣野 和男	×
8					
9		月形町PTA連合会	(月形小学PTA)	刈田 廣美	○
10		月形町赤十字奉仕団	委員長	松山 俊子	○
11		NPO法人 コミュニティワーク研究実践センター	事務員	熊倉 なみ	○
12		市北行政区	理事	高島 康典	○
13		月形刑務所	看守部長	本多 大輔	○
14		社会福祉法人 札幌会つきがた友朋の丘		鳥潟 慎太郎	○
15	条例第3条第2項の 2号委員 ※識見を有する者	月形町教育委員会	教育委員	岸上 希央	○
16		北海道科学大学 工学部 建築学科	教授	谷口 尚弘	○
17		公益社団法人 北海道観光振興機構 地域支援本部	地域観光部長	生川 幸伸	×
18	株式会社 道銀地域総合研究所 地域戦略研究部	業務部長	北嶋 雅見	○	
19	条例第3条第2項の 3号委員 ※公募による者	農業		山田 啓一	○
20		会社員		梅木 悠太	○